

平成 30 年度

国 語

考查時間 50 分 100 点満点

放送で「**考查を開始しなさい**」

という指示があるまで問題を見てはいけません。

それまで、つぎの注意事項をよく読みなさい。

〔注意事項〕

1. 考查開始の合図で問題用紙・解答用紙の両方に受験番号を記入しなさい。
2. 解答はすべて解答用紙の決められた欄に記入しなさい。
3. 考查終了のチャイムと同時に書くことをやめて、解答用紙と問題用紙を別々にして机の上に置きなさい。

受 験 番 号	
------------	--

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

伝統を大切にしましょうという言葉がある。日本の文化であろうとヨーロッパの文化であろうと、伝統を大事にしましょうというわけだが、伝統というものは、大事にしましょうといったからといって、おいそれとできるものではないし、つくりましょうといってインスタントにつくれるものではない。伝統をほんとうに大事にしている国だったら、そんなことをわざわざいわないものである。

伝統というのは毎日毎日の生活の中でイジ^アしていくものであるし、知らず知らず伝統に従っているからこそ伝統は生きていくわけである。それなのに、わざわざ、さあ、伝統を大事にしましょう、伝統をつくりましょうというのは、その国に伝統がないからなのだろう、と考えざるをえない。しかも、そういう国にかぎってお金さえかければ簡単に伝統がつけられると思っている。

こうして伝統をインスタントにつくるいちばんいい例が、日本でいま盛んにおこなわれている各種の祭りではないか。

祭りは、たしかに古くから日本の生活習慣のなかのハイライト^ホであつたし、私たちが子どもするときにも一年に一回か二回の祭りをとても楽しみにしていた。(I) 私たちより年上の人たちは祭りがどんなに楽しかったことだろう。

①昔はその祭りがそれぞれの村のなかで果たしている意義がちゃんとあつた。漁村は漁村、山村は山村、雪の降る地方は雪の降る地方で、安全や健康や豊穰^{ほうじやう}をイノ^イるために祭りが考えられてきた。農村地帯では、長い畑仕事が終わったときに、共同で休養できるように祭りの日が決められていたし、雪の降る地方だったら、祭りによって、長く単調でつらい冬の生活をすこしでも活気づけるといふ意味がこめられていて、たんに無意味に遊ぶことではなかつたのである。

祭りにはみんなが参加する心がけというふうなものもあつて、ふだんから囃子^{はやし}の稽古をしたり、踊りの練習をしたり、あるいは必要なものを自分たちの手でつくるといふように、祭りの準備をしながら村の人たちが心を合わせ、協力して、祭りという晴れの日を迎えたのである。

(Ⅱ) 最近流行の祭りは、インスタントにイベントとしておこなわれるようになってしまった。これまで祭りがなかつた地域や神社やお寺にへんな祭りをつくつてしまつたり、神輿みこは一回かつぐだけだったものを、みんなが加われるようにと、三回かつぐようにしてみたり、またテレビや雑誌に報道されるように仕掛けたりするようになった。そうになると、祭りとはまつたく縁のない見物人たちが何万人と押し寄せてきて、それを目当てに物売りもたくさん出てくる。その結果、「イベント」を見に行くことが伝統を守ること、参加していることだと勘ちがいする人たちまで出てくるのである。いや、ほとんどの人がそう思うようになっていく。(中略)

これと同じことが、日常生活様式のなかでも起こっている。しつけもまた、日本の伝統の一部として考えられるべきではないか。祭りを復活するとか、大きな神輿みこをキフキフするとか、そんなことよりもいちばん最初に考えるべきことは、子どもたちにたいするしつけではないか。日本のなかで長いことつづいてきた、いい意味でのしつけというのが、子どもたちに伝わっているかどうかをケントウケントウしてみなくてはならない。

しつけというものは、いっぺん失われてしまつたら、もう二度と復活しないものなのだから、親から子どもにもつと真剣に伝えていくべきではないか。ときによると意味があまりないものもあるし、現代生活にかかわりがないものもあるかもしれない。(Ⅲ)、じゃまになるものもあるかもしれない。

しかし、じゃまになるとか意味がないとか、いわば X 基準で全部を取りノゾノゾいてしまうのではなく、まず、古いしつけを現代の生活様式のなかで実行してみたうえで、そのあと、ほんとうにそれらが現代の生活とマッチしていないかどうかを考えてみるでもないか。

なかにはやらないほうがいいというようなものがあるかもしれない。だからといって、はじめから伝統的な生活様式やしつけを否定し、子どもに伝えていくべきものを自分の生活からなくしておいて、神輿みこだの祭りだの、その他さまざまな伝統的なものを、イベント的行事としてお金を使って復活させたり、いまの生活のなかに取り入れたりするのは滑稽こっけいである。これはほんとうの意味での伝統の復活ではないし、むしろ害になるほうが多いのではないかと思う。

戦後の日本人の生活のなかで、日本の伝統や文化を非民主的、野蛮、残酷などとレッテル貼テりをしていち早く捨て去つたこと、それを新生日本の任務と考えたことが、いまの根なし草③のごとき状況の根本的な原因である。

かつての日本の生活のなかに残っていた、さまざまなしつけ、(Ⅳ)、下駄や靴をきちつとそろえるとか、朝と晩の挨拶をするといった習慣が、日本人の生活のなかに折り目正しさや礼節や行儀のよさを生みだし、これが日本文化を支える大きな底力になっていたと思う。

ところが、こういうものを全部捨ててしまっておいて、やれ海外に行くから海外のマナーを習いたいとか、外国でディナーのときに何をどのように使うか、それだけを学びたいとかいうのは、じつに滑稽なことである。

(マークス寿子『ひ弱な男とフワフワした女の国日本』)

※滑稽……ばかばかしくしておかしいこと

問一 〳〵線ア〳オのカタカナを漢字に直せ。

問二 (Ⅰ) 〳 (Ⅳ) に入る適当な語を次の中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えよ。

ア たとえば イ ところが ウ まして エ むしろ

問三 —— 線 a、b、c の語の本文中での意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えよ。

a			
インスタント			
ア	イ	ウ	エ
即席	急速	質素	順調
b			
ハイライト			
ア	イ	ウ	エ
最も明るい光	最も盛り上がる場面	最も深い人の本質	最も心に残る場所

c			
レッテル			
ア	イ	ウ	エ
ある物事や人物に対する過大な評価	ある物事や人物に対する特定の評価	ある物事や人物に対する的確な分析	ある物事や人物に対する詳細な分析

問四 —— 線①「昔はその祭りがそれぞれの村のなかで果たしている意義がちゃんとあった」とあるが、その「意義」の内容として適当でないものを次の中から一つ選んで、記号で答えよ。

- ア その地域の生活と密接に関わり、村の安全や健康などを願うこと。
- イ 村の人々が準備の段階から祭り作りに参加し、協力しあうこと。
- ウ 共同の休日や村の活気づけという、その村の生活の節目となること。
- エ 報道され多くの見物客が集まることで、村に経済の活性化を促すこと。

問五 —— 線②「同じことが、日常の生活様式のなかでも起こっている」とあるが、その具体例として筆者は何を取り上げているか。本文中から十三字で抜き出せ。

問六 X に入る適当な語を次の中から一つ選んで、記号で答えよ。

- ア 物理的 イ 科学的 ウ 合理的 エ 道徳的 オ 伝統的

問七 ———線③「根なし草」とは「確かなよりどころのない、定まらない物事」を例えた言葉であるが、筆者は本文で、どのようなものを「根」と考えているか。簡潔に答えよ。

問八 本文での筆者の主張として、最も適当なものを次の中から一つ選んで、記号で答えよ。

- ア 伝統的な子どもやしつけは、現代の生活様式に合わないものも多いため、一度完全に捨てるべきだ。
イ 日本に伝統的な祭りを多く残すためには、よりたくさんのお金をかけるべきである。
ウ 積極的に各地のイベント的行事に参加していくことが、伝統を守ることにつながる。
エ 日本の伝統や文化を捨てたのにもかかわらず、海外のマナーを学ぼうと考えるのは間違っている。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

旅慣れた人つてすてきだなあいつも思う。こういう人に私もいつかなれるだろうかと思う。なれないまま、歳を重ねているのだが。

では私にとって「旅がはじまった」と思えるのはいつかと言えば、旅をはじめて三日目か四日目くらいである。

② まったく見知らぬ土地に着く。空港を出た時点からこわい。③ 諦（あきら）むるほど読んだ「犯罪の手口」が頭のなかを駆けめぐる。夜だと、なおのことこわい。タクシーに乗っても、バスに乗っても、どこか山奥に連れていかれて身ぐるみはがれるのではないかと緊張している。無事に中心街に着き、ホテルを見つけてチェックインしても、まだこわい。町に出ていくのがこわい。何かとんでもないサイ（サイ）ナ（ン）ンが待っているようでこわい。でも部屋の中までじっとしているわけにはいかないから、おそろおそろホテルを出、町を歩く。歩いている人全員が、よからぬ企（い）みを持った人に見える。警戒しながらそろそろと町を歩く。何度も迷う。迷うこともまた、こわい。路地で地図をぐるぐるまわして正しい道をさがす。ホテルに帰り着くころには、ぐったりと疲れている。

旅先に着いて二、三日、私はそんな状態で過ごす。三日目か四日目に、（Ⅰ）町の全体像が見えてくる。ごはんのおいしい店、気軽に酒が飲める店が見つかる。ホテルまでの帰り道も迷うことがなくなる。町を歩く人々は、企（い）みなど（Ⅱ）持つてもないどころか、一介（いっかい）の旅行者などに興味を持つていないことがわかる。道を訊（き）けば教えてくれるとわかる。出発前の緊張や不安がゆっくりほどけていく。

そのとき、町がやけに立体的に見えるのである。そこがだれかの生活の場であり、見知らぬ場所だけれど私の暮らす町と基本的には同じであると理解したとたん、光景が生き生きと立ち上がってくる。路地をただ歩くだけで、指の先までわくわくしてくる。このときだ、私の旅がはじまるのは。

旅がはじまると、俄（がぜん）然たのしくなってくる。（Ⅲ）何をあれほどこわがったのかと不思議になる。次はこの町にいこうかとガイドブックをめくるのもたのしい。あれほど頭に入らなかつた地図や地名が、旅先のホテルだとすらすら入ってきて、興味が激しく喚起される。

日焼け止めを忘れても、目覚まし時計を忘れても、長袖の衣類を忘れても、一枚しかないシャツがくさくさくなくても、なんとかなるさ、と思う。実際たいていの場合、なんとかなるのだ。旅のはじまりを実感したときの私は、いちばんパワーとエネルギーにあふれている。

私は列車の乗り換えや時刻表を調べるのが大の苦手で、そんなところも旅慣れていないと思うのだが、しかしこのときばかりは、人格が変わったかと思うくらい張り切つて調べ、「ここにいきたい」と思った場所にどうにかして向いていく。かつてギリシャのロードス島から、奇岩の上に修道院の建つメテオラまで、列車・飛行機・バスを乗り継いで移動したことがあるのだが、今思い出しても、どのようにそれらを手配し、なんとという町をケイユケイユしてメテオラにたどり着いたのか、まったく思い出せない。火事場④の馬鹿力ならぬ、旅のはじめの馬鹿力のようなものである。

旅の計画の段階からどきどきわくわくしている人に比べたら、私はずいぶんな愚図ぐずで、もつたいないことをしているなどと思う。(Ⅳ) 異国の町に着いたときから旅のはじまりを実感できればいいのに、と思うのだが、幾度旅しても、そうはできない。こういうのを、性分というのだろうか。

旅がはじまった、と実感してからの私の旅が、では順調かというところ、やっぱりそんなこともない。パワーとエネルギーに満ちあふれているのはそのときだけで、以降、苦手な乗り継ぎや時刻調べに **X** 苦 **Y** 苦し、それなのに幾度も失敗をし、どうにも旅慣れない自分にまたしても対面することになる。

旅から帰つてきて思うのは、まず「疲れた」ということ。充実したとか、リフレッシュしたとか、存分にたのしんだとか、そういう **Z** な感想は出てこず、「疲れた」のみ。慣れないことをやっているから疲れるのだ。

じゃあなんで旅に出るの？と、人にはよく訊かれるが、(Ⅴ)、あの旅がはじまったときの開放的な、目覚めのような瞬間が、慣れない幾多ヒナのことを遙かに上まわつてメリヨクメリヨク的だからだ。そしてその終わった旅のよさというのは、疲れが抜けきつてからようやくくじわじわとあらわれてくる。(Ⅵ)、旅から帰つて半年後、「すばらしい旅だった」と思うこともある。旅のはじまりも遅いが、旅の終わりもまた、私はうんと遅いようである。

(角田光代『世界中で迷子になって』)

問一 〱線ア〱オのカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直せ。

問二 (I) 〱 (VI) に入る適当な語を次の中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えよ。

ア べつだん イ ようやく ウ ときどき エ いったい オ せめて カ たぶん

問三 〱線①「なれないまま、歳を重ねている」とあるが、「なれない」理由をどのように述べているか。解答欄に合う形で、本文中の漢字二字の語句を抜き出せ。

問四 〱線②「まったく見知らぬ土地に着く。空港を出た時点からこわい」とあるが、これがやがてこわくなくなるのは、どのようなことを理解できた時か。解答欄に合う形で、本文中より四十五字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を答えよ。

問五 〱線③「このときだ、私の旅がはじまるのは」とあるが、この後の「私」を説明するものとして適当でないものを次の中から一つ選んで、記号で答えよ。

ア 忘れ物や準備不足があっても気にすることなくいられるようになる。
イ 見知らぬ土地に対する警戒心がなくなっている。
ウ 苦手だった乗り継ぎや時刻調べを失敗なくできるようになる。
エ 見知らぬ土地に対する興味を強く感じるようになる。
オ 行きたい場所を探して積極的に動くようになる。

問六 ——線④「火事場の馬鹿力」とあるが、筆者はどうしてこのような表現で説明したのか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選んで、記号で答えよ。

- ア 恐怖心を克服するために大胆なことをしたから。
- イ 記憶に残らない程度のちっほけな力の發揮であったから。
- ウ 普段では考えられないような力を發揮したから。
- エ 苦手を克服して大きな自信を持てたから。
- オ 張り切る気持ちが大きくなって大騒ぎしたから。

問七 と に漢数字を入れて、「非常に苦しむこと」という意味の四字熟語を完成させよ。

問八 に入る適当な語句を次の中から一つ選んで、記号で答えよ。

- ア 精神的
- イ 消極的
- ウ 計画的
- エ 肯定的
- オ 限定的

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

大和国に龍門といふ所に、（ア）聖ありけり。住みける所を名にて、龍門の聖とぞいひける。その聖の親しく知りたりける男の、（イ）明暮鹿を殺しけるに、（ロ）照射といふ事をしける頃、（ハ）いみじうくらかりける夜、照射にいでにけり。

鹿を求めありく程に、目をあはせたりければ、「鹿ありけり」とて、（ニ）おしまはしおしまはしするに、たしかに目をあはせたり。（ヘ）矢比にまはし取りて、（ホ）ほぐしに引かけて、（ヘ）矢を上げて射むとて、（ニ）弓ふりたて見るに、この鹿の目の間の、（ヘ）普通の鹿の目の間の

例の鹿の目のあはひよりも近くて、目の色もかはりたりければ、あやしと思ひて、弓を引きさしてよく見けるに、なほあやしかりければ、矢をはづして、火とりて見るに、鹿の目にはあらぬなりけりと見て、（ニ）おきばおきよと思ひて、

近くまはしよせて見れば、身は一ぢやうの皮にてあり。「なほ鹿なり」とて、又射むとするに、なほ目のあらざりければ、ただ打ちに打ち寄せて見るに、法師の頭に見なしつ。（ニ）これはどうかと見て、（ニ）おり走りて火打ち吹きて、しひをりとして見れば、この聖目打ちたたきて、鹿のかはを引きかづきてそひふし給へり。

「こはいかに、かくてはおはしますぞ」といへば、ほろほろと泣きて、「わぬしがせいする事を聞かず、いたくこの鹿を殺す。我鹿にかはりて殺されなば、さりともしはとどまりなんと思へば、かくて射られんとして居るなり。口惜しう射ざりつ」とのたまふに、この男、ふしまろび泣きて、「かくまでおほしけることを、あながちにしはべりける事」とて、（ニ）そこに、刀を抜きて、弓たちきり、やなくひみな折りくだきて、もとどりきりて、（ニ）やがて聖に具して法師になりて、聖のおはしけるがかぎり、聖につかはれて、（ニ）聖失せ給ひければ、またそこにぞおこなひてゐたりけるとなん。

〔宇治拾遺物語〕

※聖……………僧侶

※照射……………明かりをともして鹿をよせて射ること

※わぬし……………お前

※やなくひ…矢を入れて背中に負う道具

※もとどり…頭の上に束ねた髪

問一 〰〰線ア↘ウを現代かなづかいに直せ。

問二 〰〰線a↘cの意味として、適當なものを次の中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えよ。

a			
ア	イ	ウ	エ
とても好奇心があつて	とても危険だと思つて	やはり興味深いと思つて	やはり不思議に思つて
b			
ア	イ	ウ	エ
残念だが矢を放たなかつた	残念だが矢を放つてしまった	幸運にも矢を放たなかつた	幸運にも仕留めた

c			
ア	イ	ウ	エ
聖がお帰りになつたところ	聖がお亡くなりになつたところ	聖が失望なさつたところ	聖が失敗なさつたところ

問三 〰〰線①「せいする事を聞かず」とあるが、どのようなことを聞かなかつたのか説明せよ。

問四 — 線②「この男、ふしまろび泣きて」とあるが、その理由として適当なものを次の中から一つ選んで、記号で答えよ。

- ア 聖が強引に仕事をさせようとしたから。
- イ 聖が必死になって仕事の邪魔をするから。
- ウ 聖が命をかけて仏の道を教えてくれたから。
- エ 聖が仏の道に反するとして獲物を取り上げたから。
- オ 聖が自分を弟子にしてくれたから。

問五 次のア～オのうち、本文の内容として適当なものを次の中から一つ選んで、記号で答えよ。

- ア 男は仏道に反することで気が進まなかったが、生活のために鹿を殺していた。
- イ 男は鹿と目が合い射ようとしたが、いつもと様子が違ったため火矢を放った。
- ウ 男は聖が鹿の皮をかぶってまで自分をだまそうとしたことに腹を立てた。
- エ 男は聖に鹿を射る手伝いをしてもらったので、聖のもとで法師になった。
- オ 男は毎日鹿を殺すという自分の行いを深く反省し、生涯仏道修行に励んだ。

問六 この文章の出典である『宇治拾遺物語』と同時代に成立した作品を、次の中から一つ選んで、記号で答えよ。

- ア 『土佐日記』
- イ 『奥の細道』
- ウ 『古今和歌集』
- エ 『日本書紀』
- オ 『新古今和歌集』

国語 解答用紙

受験番号

得点
点

一
問一
ア
イ
ウ
エ
オ

問二
I
II
III
IV

問三
a
b
c
問四

問五

問六

問七

問八

二
問一
ア
イ
ウ
エ
オ

問二
I
II
III
IV
V
VI

問三 幾度旅をしても旅慣れた人になれないのは、それが自分の

--

 だから。

問四

 ことを理解できた時。

問五

問七
X
Y
問八

三
問一
ア
イ
ウ

問二
a
b
c

問三

問四
問五
問六